



加味

+

34  
11







人も家もいぢへんころはまゝがなるまじ。明<sup>アキ</sup>とそをぬふ。あつをがふ  
御直毘大直毘の御乃まゝくくを言ハ。あかゆくまたとくも乃  
ちくたるむ。

いぬへよりほらつておぼくは種を減らねむ。

よの中おいふへのもた。いへへおろへへ。又おろが。お種め家  
あどとおろ。減か。減れで。た代へ。何して。何ぞとた  
こ。いをほら。き中お。ぬえ。も。何ぞを。おづ。て。又。ぬ  
む。い。ぬ。お。つ。び。き。ハ。お。ろ。く。と。直。毘。の。ね。の。あ。の。こ  
と。減。つ。と。び。種。て。ハ。ま。と。ほ。ぐ。き。や。ね。く。又。た。い。び。き。と。う。り  
る。ま。い。づ。と。も。お。い。や。う。い。き。く。ら。ち。き。い。た。と。か。お。き。ま。ら。ぬ。

ぬるき氏。おど。神代乃ゆ。あ。う。一。ま。た。を。ど。ハ。さ。う。お。も。い。を。ど。さ。う。  
ぬ。も。や。く。お。は。く。ぬ。え。を。ぬ。ま。が。お。ろ。き。今。ハ。い。お。思。ひ。て。も。二。こ。び。つ  
ぎ。お。ろ。き。ま。よ。く。ね。く。な。ん。あ。ま。い。減。お。も。お。ま。め。お。ま。き。こ。い。と。  
づ。ふ。も。減。て。種。ま。ら。ぬ。お。ろ。く。何。が。さ。ぞ。よ。く。さ。ま。さ。う。め。て。  
今。より。後。も。ま。ま。た。た。ま。ぬ。お。い。や。り。く。つ。う。か。う。か。う。お。ろ。ぬ。お  
し。き。お。ど。ぞ。か。し。

鬼といふ物

鬼といふもの。おぼろげな。今。の。世。お。ろ。く。つ。び。き。と。も。い。お。遊。迹。お。て。た。き。  
物。決。中。む。く。お。書。ぶ。ま。ふ。ま。く。名。い。る。ま。ぬ。も。り。を。う。け。ど。と。し。さ。う。  
書。紀。の。麻。呂。を。お。は。ま。お。一。本。お。宮。中。見。鬼。と。え。し。ま。う。於。朝。倉。山。













の何れもさしひら物を巧ぎて其の色はどきどき茶はうららの  
ぶくわるといひまのまはるゝんかその例を一つ二つ引出  
ま言おやうでよくわらうものなり。

詩のすゝめ人の心ニツ

嚴滄浪詩話とて物小詩之是非不必<sub>ニ</sub>兼<sub>テ</sub>試<sub>シ</sub>以<sub>テ</sub>己<sub>ノ</sub>詩<sub>ヲ</sub>置<sub>キ</sub>  
之<sub>ヲ</sub>古人詩中與<sub>ニ</sub>識<sub>者</sub>觀<sub>ス</sub>之<sub>ヲ</sub>而<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>ハ</sub>辨<sub>ス</sub>則<sub>チ</sub>真<sub>ニ</sub>古人<sub>ナリ</sub>矣<sub>ト</sub>い  
ふ<sub>ニ</sub>又<sub>レ</sub>王敬美<sub>ガ</sub>執<sub>ニ</sub>圃<sub>ノ</sub>擷<sub>ニ</sub>餘<sub>ノ</sub>といふ也  
のふ余嘗<sub>テ</sub>服<sub>ニ</sub>明<sub>卿</sub>五<sub>七</sub>言<sub>律</sub>謂<sub>フ</sub>他人詩多<sub>ク</sub>於<sub>テ</sub>高<sub>處</sub>失<sub>レ</sub>穩<sub>ヲ</sub>  
明<sub>卿</sub>詩多<sub>ク</sub>於<sub>テ</sub>穩<sub>處</sub>藏<sub>ニ</sub>高<sub>ヲ</sub>といふ<sub>ニ</sub>又<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>もはるゝとて  
いふ<sub>ニ</sub>宋<sub>明</sub>の<sub>ノ</sub>詩多<sub>ク</sub>於<sub>テ</sub>穩<sub>處</sub>といふ<sub>ニ</sub>又<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>もはるゝとて

ころがへらむくはどきかゝるといふなり。さういふ  
どがうやうはうらむとをいふとていふなり。申ふなりとて  
いふなり。いふなりとていふなり。いふなりとていふなり。  
いふなりとていふなり。いふなりとていふなり。いふなりとていふなり。

伊子丸二條家冷泉家此奉

惺窩文集惺窩先生系譜畧曰先生系出于法性寺  
攝政道長公第六男長家卿長家官至權大納言號  
御子丸又號三條長家生忠家為權大納言號小野  
宮忠家生俊忠權中納言號二條院俊忠生親家初  
為舅葉室權中納言顯隆子改名顯廣後歸本宗又

改名俊成。為皇太后宮大夫。家居五條。世稱五條三位。別賜播州三木郡細川莊。江州坂田郡小野莊。是為倭歌所奉邑。適子世襲。襲封。俊成生定家。號冷泉。後稱京極。為民部卿。權中納言。父子相繼。善倭歌。永為世範。定家生為家。權大納言。兼民部卿。住采地嵯峨。中院。為家有子三人。長曰為氏。權大納言。號御子丸。其後裔。稱二條家。又號冷泉。次曰為教。左兵衛督。號京極。季曰為相。權中納言。號冷泉。三家鼎峙。各立門戶。正元年中。以書券付播州細河莊。於為氏。尔後為氏有不孝數事。為家悔之。文永十年癸酉七月二

十四日。十一年甲戌六月二十四日。以文券兩通付。為相。建治元年乙亥五月一日。為家薨葬嵯峨中院。為相尚幼。故為氏強奪細河莊。為相母北林禪尼赴鎌倉。訴將軍惟康親王。為氏亦告其事。獄久不決。為氏為世父子。與為相論爭不已。又訴將軍守邦親王。執權相模守平。熙時判曲直。以正和二年癸丑七月二十日。賜公牒一通。於為相。復其本邑。其牒今存。于吾家。後住鎌倉。號藤谷。薨葬藤谷岡墳墓猶存。為相生為成。為左兵衛督。早世。弟為秀嗣。權中納言。建武乱後。細河小野兩莊。為人所奪。為秀無由告訴。徒抱

哀痛為秀有二男長曰為邦次曰為尹為邦為氏  
孫為明之子繼御子充家騷亂之間失其世祿唯携  
典籍而家居尋早世為尹乃嗣為秀後為民部卿為  
權大納言應永二十三年丙申五月十八日將軍充  
大臣義持公還付播州細河莊于為尹亦來傳至為  
純無有爭者為尹有三子長曰為之次曰為員次曰  
持和持和生而穎悟才過二兄故為尹太愛之釋氏  
有請以為弟子者不聽充大臣義持公賜持字名持  
和因為伯父為邦後嗣傳奇書秘笈襲號御子充以  
采邑不給故來歸為尹乃分與細河之地號冷泉吾

家今猶并用二條之家規本出于此後更名持為權  
大納言持為生成為將軍充大臣義政公初賜成字  
後賜政字因改名政為享德二年癸酉五月二十五  
日還付江州小野莊兼民部卿為權大納言政為生  
為孝為侍從中納言為孝生為豐侍從從三位為豐  
生為純參議侍從累世住播州歲時入朝有子教  
人長曰為勝為充近衛權少將次曰教勝次乃先生  
也幼而為僧既長常讀聖賢之書志嚮儒術後遂還  
俗名肅字斂夫號惺窩詳于行狀次曰俊久改姓源  
名有親繼六條有孝後次曰為將天正六年戊寅赤

松氏旁族別所小三郎源長治以兵襲來畧細河莊  
為純為勝父子防之四月一日戰死依藤氏某聞事  
急來援館舍燒亡父子已死某悔來遲而立自殺土  
人感其義合葬三人樹松三四株名曰冷泉塚或曰  
依藤塚播人至今稱之歷世藏書盡為灰燼肅訟之  
平右府信長公家臣筑前守秀吉秀吉曰且待時運  
竟不果肅無如之何於是齋正和二年公牒及殘編  
遺書奉毋與兄弟同來京師後弟為將加元服任叙  
官位時既失邑家亦幾絕肅子為景初奉仕後水  
尾帝任圖書頭賜號細野取細河小野首尾字也

後升明正保中勅冷泉古有兩派可以再興傳  
旨於東府以為景復為冷泉任九近衛權少將尋  
轉中將賜城州愛宕郡小山村相樂郡林村及小寺  
村三所之地教蒙顧聞侍講經筵善詩歌及倭文  
所著有白鷗文集若干卷享保二年花朝前日  
正二位行民部卿藤原為經謹識これ二條冷泉  
家始末也上件持為つり末々下冷泉殿のまゝ為つ  
と為景つは孫也上冷泉殿も為尹つは長子中將為之於乃末  
なりとし二條家ハ伊子元とつは為氏つは子大納言為世つは子  
つら中將為之於中納言為藤つ中將為之於乃つは





巽角柱也 閑所 慧日光前 懺罪根 大悲道上 發心門 南山 月下 結縁カ 西刹 雲中 吊旅魂

性情の切あふく夫婦の間ふくはあしつる漢人の何  
か人明の何仲黙といつが言にいつく夫詩本性情之發者  
也其切而易見者莫如夫婦之間是以三百篇首于  
雖鳩六義首于風而漢魏作者義閑君臣朋友辭必  
托諸夫婦以宣鬱而達情焉其旨遠矣由是觀之少  
陵之詩博涉世故出於夫婦者常少而風人之義或  
缺といつることをいふるおとこ物とともその意の情をいふ君  
臣朋友などたる乃他事風をいふの託へしていふみづ

らあふ意の詩乃たきいふさやと他事を風をいふさよ  
き人を感じしむるなり情のぬくからむさうそふみづの  
らたそのあひをのべし詩もかきいふおとこつるべきと  
となくして性情をのがさうとといひいふべしと  
詩ふらうらあ意の結乃たきいふかの人をせめていふさ  
かりてさういふていふていふていふていふていふてい  
からいふていふていふていふていふていふていふてい  
のつらさういふていふていふていふていふていふてい

あをり

六帖ふら乃凱の方ふあをりてゆうまゆをらひづつるあり海







































今と云べきに北山抄乃りていふべきに西にゆくものの中北陸道ふキタ  
 ノミチといふ後あきハ落しるや南海道西海道の傍ふるふこととも  
 北の道といふべきに又二書らとふ山陰道ふカゲトモノミチ山陽道ふソト  
 モノミチといふ説もむがことしうむらとハ影面<sup>カキ</sup>にて南をいひそとハ背面<sup>ソトモ</sup>  
 みて北をいふさるさるさるとあふ人の陸字にありてゆかりなりさかしら  
 ふ入と入るはべしとて又東海道もヒウカシノウミノミチ東山道ハヒウカシ  
 ノヤノミチねどいふぞ字ふありて正<sup>タシ</sup>きさぬふすむをれどけいふら  
 申ふ後の訓ふて東海もハウツチといひ北山道ハ東の道又山の道  
 といひ北陸道ハクルガ道又キタノ道といひ南海道ハミナミノ道西海道ハ  
 ニシノ道といふぞ返アて正<sup>タシ</sup>かきこと互<sup>タガヒ</sup>りまはるることねまかぎ

了ハ言を省<sup>ケ</sup>れてつゞまやふ短く定巻くものゆめとバシ書紀の  
 巻く小石いふ訓も畿内ハウチウクニ東海道ハウツミチ又ウツミチと  
 と東山道もヤノミチ又アツノヤノミチとも北陸道ハクヌカノミチ又クニガ  
 ノミチ又クムカノミチ又クルガミチとも山陰道ハソトモノミチ山陽道ハカゲト  
 モノミチ南海道ハミナミノミチ西海道ハニシノミチといひ又郡司の  
 よもコホノミヤツコハ郡造<sup>コホノミヤツコ</sup>也<sup>タニノミヤツコ</sup>國造<sup>タニノミヤツコ</sup>乃<sup>タニノミヤツコ</sup>依<sup>タニノミヤツコ</sup>ス<sup>タニノミヤツコ</sup>ケ<sup>タニノミヤツコ</sup>リ<sup>タニノミヤツコ</sup>ノ<sup>タニノミヤツコ</sup>ミヤツコハ助造<sup>タニノミヤツコ</sup>也<sup>タニノミヤツコ</sup>  
 といふのみやつことハ郡司をいづともいふべく大領ハオホイコホノミヤツコ  
 とつとをいふなりすしる書紀の訓大領もコホリノミヤツコともオホミヤツコ  
 ともコホノミヤツコともいひあはれやつてハいふなり少領ハスケノミヤツコ

吉志舞

北山抄大嘗會午日、巡了云。次安倍氏奏吉志舞、五位以上引之、設床子等如前、作高麗、乱聲而進舞者、廿人、樂人廿人、安倍吉志大國三宅日下部難波等氏供奉、寛平記云、三四人着六位袍、胸腋打懸甲冑、執棒、美平記云、於舞臺西奏之、引頭二人立臺下、舞人在前後、端者服甲冑、在中间者、幞頭冠末額、褐衣、兩襜、皆執楯、戟、舞酣刀云々

鈴奏

行幸時、小鈴奏、いふいふ、同書行幸條、裏書云、若少納言遲、參者、少將相代奉仕、鈴奏、其儀、圍司奏了、退

歸之後、入自左腋門、經長樂門前、橋進、就版位、揖而奏云、御共持仕倍奉、鈴賜、申云、還御時、撤御輿、後不待圍司奏進、自長樂門前、橋頭奏云、御共持奉、鈴進、申云

荷前

荷前、荷を能といふ、ハ本河本未本此、紫野と許といひ、火を火、新炎と保といふ、いふ、ハ二の考、ハ五の考、いふ、ハ保、いふ、ハ紀、非功、ハ小荷持を、能登利と列、はわり、又和名所、後、申、下、道、致、乃、郷、名、ハ、近、似、と、考、知、加、乃、里、と、考、いふ、ハ、書、也、ハ、似、と、の、と、り、と、考、いふ、ハ、同、ト、例、也。

改年號

西宮記云改年號大臣奉勅仰文章博士令勘申年  
號奏聞勘定之後仰内記令作詔書奏草及清書賜  
御書日下中務中務度案於太政官大政官連署大  
納言覆奏畢下施行官符云々

改錢

同書云改錢大臣奉勅仰博士令勘錢文奏定畢擇  
吉日召能書者於陣頭令書字樣奏聞賜作物所勘定  
副官符下鑄錢司鑄錢司進新錢奏解文之後先奉  
神社佛寺云々

後成つ定家つの忠告つる案集といふ事

甲斐玉此身延ふといふ事此の事ごとを考へて身延後と  
名づまふと相を云々いふ事此寺の寶篋なりと云々  
そと云々いふ事申ふ後定家つ親子五重は多案集一紙為家  
の古と案為相の源氏相傳一紙阿佛尼が抄たた道家との朗  
係案云々といふ事云々いふ事此物ごとくもや後成つ定  
家つ此案案集ねど云々いふ事ねと云々いふ事

定家申内事

定家申内事云々いふ事云々いふ事云々いふ事  
云々いふ事云々いふ事云々いふ事云々いふ事  
云々いふ事云々いふ事云々いふ事云々いふ事













賀茂行幸社司勸賞

同記云嘉保二年四月十五日今日賀茂行幸也  
裏書云賀茂行幸上下社司勸賞上社司九人神主  
從五位下賀茂縣主成繼讓外甥藤原政季祢宜從五位下  
同安成讓外甥源保祝從五位下同成季讓舅父藤原行季權祢  
宜從五位下同重助讓漆國守權祝從五位下同成長讓舅  
父惟宗片岡祢宜從五位下同成定讓外舅紀資宗同祝從  
親持五位下同成賴讓藤原貴布祢祢宜從五位下同成  
五位下同成氏讓藤原宗政下社司五人  
忠讓平同祝從五位下同成氏讓藤原宗政下社司五人  
祢宜正五位下鴨縣主惟季自叙祝從五位下同伊

房讓息男伊俊權祢宜從五位下同職通讓藤原實俊川合祢宜

從五位下同經貞同祝從五位下同惟輔讓伴季兼已上

十四人倍加一階下社權祢宜從五位下季長依重

服漏勸賞追讓代官伊長藏人少納言後日云代官

惟長叙爵又季長可有勸賞由追有宣旨者

節刀此事

同記云寬治八年十一月二日依仰與彼中將向

內侍所官行事所新作辛櫃一合長四尺黑漆中朱漆無鎖匙以朱綱

給之件辛櫃樣不慥尋得相具與彼中將共取出節

但問古老女官等令作也刀十柄此中有靈劔二柄劔樣切鋒八柄一柄長五

寸五分，左方，形繞見打界也。左鋒，靈形繞。一  
殘鋒，二寸許，師及柄本五寸四分，自貫之穴。此  
柄長二尺二寸，峯有銘文云：北斗在青龍右白虎，此  
下燒損，不見也。中央間有此字許也。後玄，此字以  
其上鳥尾形，繞在柄本六寸穴一在。以上二柄，若  
是靈斂，斂六柄，長二尺四寸，但柄本或六寸，或  
四寸，等相加也。斂并曾不見。  
鯨尾二柄，一柄長二尺四寸，一柄長二尺，柄  
以上二柄，以上十柄，皆以燒損，一監臨，納辛櫃。  
無銘文。納了後，以朱綱結固之。云：裏書云：長德三年五月  
廿四日，藏人信經私記云：遣召主計助安倍晴明，召  
向宜陽殿，御斂等事，申云：件御斂，卅四柄也。去天德  
內裏燒亡之日，皆悉燒損，暗明為天文得業生之時。

奉宣旨，進勘文，所令作也。卅四柄之中，二腰名靈刀八。  
一腰破敵，一腰守護，但件斂有鏤鏤，歲次並名。又同  
鏤十二神，日月五星等之躰也。而燒損之後，不見其  
文，仍所獻勘文也。御斂樣，乃木形也。件破敵是遣大  
將軍之時，所賜節刀也。一腰是名守護，候御所是也。  
者，天德以後，度々燒之後，未被作件。二腰本是百濟  
國所獻，云々。今日所遣斂身，六柄之中，靈刀八，二腰之  
實有之寶件，靈刀寺國家大寶也。必可被作儲者，天  
德奉勅，以備前國，撰獻鍛冶，白根安生，令燒其實。其  
高雄山也者，七八月，庚申日，必可作此斂者，其故仰。

造酒令史安倍宗生等也。今年八月廿六日。是庚申日也。然而己為九月節。又日次不宜。明年七八月庚申日。可被始作。秋。件記後日。從治部卿通俊許借得而所記置也。是寬治八年十月廿四日。皇居攝川院燒。よりきりぬ。裏書信記。私記。いふに記さ。と本書亦志。多し。れ。と。節。刀。異。れ。と。い。ふ。と。ふ。り。百座被

白川顯廣王記云。長寬三年六月六日。今日百座被。そのうらやかくさるはふともし。長寛三年。長寛三年齋王帰系。新田。中。二。野。子。靈。

同記云。長寬三年十二月十九日酉時。前齋宮立。本寮迎。尤少辨行隆王兼隆也。支尅著逸志。宿。廿日午。尅立逸志。驛家。廿一日。既伊世河口。午時出御。萬事不具之故也。廿一日戌時。著伊賀山中。一宿了。無先例。迎御輿。散。引破。如薪。結合持參也。凡無先例事也。廿二日戌時。著伊賀河口。廿三日。著黑太。即一宿。抑伊賀河口。寮侍武者所為。殺平大納言河婦。宇衆住人致時了。已其身負手。御迎。檢非違使廣綱子二人鬪乱。已突殺了。凡路次一切不措。濫行端多。廿五日。僅著和泉木津。不作御所。仍奉令宿。舩。艦。





